

愛媛大学

南予水産研究センター

South Ehime Fisheries Research Center

年報

第15号 2022年度版

目 次

はじめに	2
1. センター組織と研究概要	3
(1) 組織の概要	3
(2) 各部門の研究概要	4
(3) 教職員一覧（2023 年度）	4
2. 研究者要覧（専任・兼任教員，特定教員・研究員，客員教員，2023 年度）	7
3. 研究プロジェクト（専任教員，特定教員・研究員，2022 年度）	12
4. 研究成果（2022 年度，兼任教員は水産関係の成果のみ記載）	14
5. 学会及び審議会・委員会等の活動（専任教員・2022 年度）	19
6. 教育活動（専任教員・2022 年度）	21
7. 地域・社会連携活動（2022 年度）	27
(1) シンポジウム，講座，講演会，展示などの開催（主催，共催，後援等）	27
(2) 地域特別研究員との共同研究	29
(3) 地域連携教育	30
(4) 一般向け講演等	31
(5) 一般向け雑誌記事等	31
(6) 受賞	31
8. 新聞記事・テレビ出演等（2022 年度）	32
9. センター視察・来訪者（2022 年度）	33
愛媛大学南予水産研究センター規則	35
愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程	38
愛媛大学南予水産研究センター運営委員名簿	40
愛媛大学南予水産研究センター参与会要項	41
愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿	42
愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項	43
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項	43
愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿	44

はじめに

2022年度の愛媛大学南予水産研究センター年報の発行に先立ちまして、ご挨拶させていただきます。2022年度は、我々を取り巻く環境を大きく変える事柄が二つありました。一つは、2020年から続いたコロナ感染症で、2022年には第8波の感染拡大を数えるに至りました。一方で、原因ウイルスのCOV-19はオミクロン変異株へと置き換わり、感染力は強まった反面、ワクチン接種も進んで、感染した際の症状は軽くなったとされます。南水研の教職員と学生も多くの方が感染し、仕事や学業に支障が見られました。こうした渦中で、最も大きな変化となったのが、授業や会議のオンライン実施で、授業では学生と顔を合わせて対面で授業する機会が長らく制限されてきました。一方で、オミクロン株への変異による弱毒化で、生簀作業やサンプリングなど屋外での作業が支障なくできるようになってきた他、実習についての制限も緩和されました。また、会議のオンライン化は移動による時間の浪費の削減につながる良い面もありました。

もう一つの大きな変化は、2017年度から5年間スマの完全養殖や赤潮の早期検出の研究を支えてきた文部科学省「地域イノベーション・エコシステム形成プログラム」が終了を迎えたことで、南水研の主軸として取り組んできたプロジェクトであり、感慨深いものがあります。特にスマでは、南水研の育種系統「南水1号」の樹立とそれによる産業拡大に大きな足跡を残したと思います。終了評価、事後追跡調査におきましても文部科学省、外部評価委員から高評価をいただき、成功裏に終了することができました。一方で、このプロジェクトの終了に伴って、若手研究者の雇用費が失われ、若手研究者の方々には異動先を探してもらう必要が生じました。結果として、西宮攻特定助教は国立大学法人弘前大学地域戦略研究所へ、Dipak Pandey 研究員は株式会社宇和島プロジェクトへの異動が決まり、新たな一步を踏み出されることとなりました。また、竹内久登研究員については、令和5年度学長戦略・若手教員等ポジティブ・アクション事業に採択され、令和5年10月から愛媛大学助教として南水研メンバーに加わることとなりました。ちなみに私も令和5年3月31日をもって定年退職いたしました。特命教授・センター長として引き続き南水研の運営に携わらせていただくこととなりました。

現在、世界的には気候変動が急速に進行し、水産業が向き合う自然・社会環境は目まぐるしく変化しています。こうした中、愛媛大学は環境と調和した持続的な一次産業に寄与する研究を推進することを一つの柱とすることを表明しております。南水研もこれまでの研究をさらに発展させ、水産研究の立場からこの柱を支えていく必要があると確信しています。

2023年11月

愛媛大学南予水産研究センター

センター長 松原 孝博

1. センター組織と研究概要

(1) 組織の概要

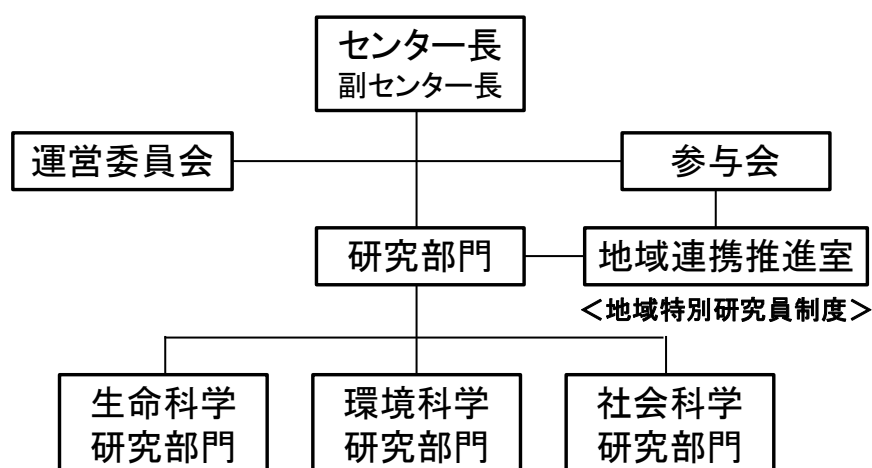
愛媛大学には、学部や研究科などにまたがる横糸的な組織として 4 つの機構（教育・学生支援機構、社会連携推進機構、先端研究・学術推進機構、国際連携推進機構）があります。南予水産研究センター（以下、南水研）は、これらのうち社会連携推進機構に属する研究センターです。社会連携推進機構には現在 14 のセンターがありますが、これらは役割により産学連携推進部門、地域連携推進部門、地域文化研究部門に分類されており、南水研は地域連携推進部門の中で地域産業特化型のセンターに位置づけられています。

南水研は、漁獲量の増大を主に目指した従来の「水産学」ではなく、最先端の生命科学による高度な生産技術の開発、環境科学による養殖漁場環境の保全、社会科学に基づく地域水産業振興システム作りといった、「生命」、「環境」、「地域社会」の三者に軸を置いた独自の「水産学」を目指しています。このため、研究部門は、

- (1) 生命科学の視点からのアプローチを目指す「生命科学研究部門」
- (2) 環境科学の視点からのアプローチを目指す「環境科学研究部門」
- (3) 社会科学の視点からのアプローチを行うとともに生命科学および環境科学研究と地域の橋渡しを目指す「社会科学研究部門」

によって構成されています。

南水研の組織構成における大きな特徴は、参与会と地域連携推進室の存在です。参与会は、社会連携推進機構長等の学内委員ばかりでなく、地域の自治体や漁業関連団体の代表者等によって構成される組織で、センターの事業や運営に関して地域の意見や助言等を得ることを目的としています（p.41）。地域連携推進室は、これまでの地域連携・研究支援室を廃止して 2018 年度に新たに設置された組織で（p.44）、地域のステークホルダーの方にも参加して頂いて南水研の地域連携活動を積極的に企画・推進していくことを目指しています。地域連携推進室は地域特別研究員制度（p.43）運営しています。この制度は、自治体や漁協の職員の方を地域特別研究員として登録し、受け入れ教員とともに研究を進める制度で、2022 年度は 14 名の方が登録されています。



(2) 各部門の研究概要

生命科学研究部門

水産養殖は、海洋に生息する生物資源を人間の手で制御し、利用する産業です。水産養殖の生産性を向上させるには、対象生物の生理・生態学的特性をよく理解し、それを効率的に利用する技術開発が欠かせません。当部門では、水産養殖生物を生命科学の視点から解析し、生命科学の技術を駆使して、水産養殖の生産性が飛躍的に向上する革新的な技術を開発することを目指しています。特に積極的に行っているのが、「新養殖種および養殖システムに関する研究」です。中でも南方のマグロ類であるスマの完全養殖と新しい育種技術を組み合わせて、これまでにない魚種による新養殖産業の創出と拡大・普及に力を注いでいます。

環境科学研究部門

愛媛県南予地域に接する宇和海は、リアス式の複雑な海岸地形を持ち、水深が深く黒潮からの潮の流入も起こり、魚介類の養殖に最適な環境です。さらに、サンゴを育む清浄な海は風光明媚で、足摺宇和海国立公園の海中公園にも指定されています。環境科学研究部門では、このすばらしい環境を守りながら持続的に水産業に利用していくための研究を進めています。現在、赤潮や魚病による被害を抑え、養殖産業へ貢献する「赤潮・魚病対策に関する研究」、地域の環境を活かした「資源・環境の保全と産業創出」に関する研究開発や教育に関する取り組みを進めています。

社会科学研究部門

社会科学研究部門は、社会学・文化人類学・経済学・経営学など社会科学的なアプローチにより、持続可能な発展を目指して、適正な水産振興と漁村活性化のシステムづくりを検討し実践する部門です。生命科学および環境科学といった学問と地域の橋渡しを念頭に置きながら、二つの柱となる実証的な研究を推進しています。一つの柱は「水産社会研究」で、社会構造論・生活ネットワーク論、産業文化論・地域文化論の観点から、水産業や漁村における社会構造や生活文化を探求し、その活性化策を提言しています。もう一つは「水産経営研究」で、経済理論（経営論・管理論）をもとに、水産業や漁村におけるマーケティングやマネジメントを検討し、その振興策を提案しています。

(3) 教職員一覧(2023年度)

(※ 2023年10月までに退任した教職員)

センター長： 松原 孝博

専任教員

松原 孝博	教授	生命科学研究部門 (2023年4月から特命教授)
後藤 理恵	教授	生命科学研究部門
斎藤 大樹	准教授	生命科学研究部門
高木 基裕	教授	環境科学研究部門 (副センター長・地域連携推進室長)
清水 園子	准教授	環境科学研究部門
竹内 久登	助教	環境科学研究部門 (2023年10月から)
若林 良和	教授	社会科学研究部門
竹ノ内徳人	教授	社会科学研究部門

兼任教員

菅原 卓也	教授	生命科学研究部門 (農学研究科)
今村 健志	教授	生命科学研究部門 (医学系研究科)
高橋 学	教授	生命科学研究部門 (社会共創学部)
松枝 直人	教授	環境科学研究部門 (農学研究科)
小林 真也	教授	環境科学研究部門 (理工学研究科)
森本 昭彦	教授	環境科学研究部門 (沿岸環境科学研究センター)
日向 博文	教授	環境科学研究部門 (理工学研究科) (2023年9月から)

特定職員(教員・研究員)

* 西宮 攻	助教	生命科学研究部門 (2023年6月から弘前大学)
* Dipak Pandey	研究員	生命科学研究部門 (2023年4月から(株)宇和島プロジェクト)
* 竹内 久登	研究員	環境科学研究部門 (2023年10月から助教)

客員教員

西永 豊光	客員教授	SEN KAI Food Service LLC
武岡 英隆	客員教授	
金尾 聡志	客員教授	
西宮 攻	客員准教授	弘前大学准教授(2023年10月から)

客員研究員

山木 勝		生命科学研究部門 (愛媛県立宇和島水産高等学校講師)
山下 浩史		生命科学研究部門 (愛媛県農林水産研究所水産研究センター担当係長)
深田 陽久		生命科学研究部門 (高知大学農学部准教授)
伊藤 克敏		環境科学研究部門 ((国研) 水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所主任研究員)
藤原 謙		環境科学研究部門 (ウミトロン(株)代表取締役)
阿部 覚		社会科学研究部門 ((株)ミナトフーズ企画室長)
増崎 勝敏		社会科学研究部門 (大阪府立港高等学校教諭)

地域特別研究員

清水 陽介		生命科学研究部門 (愛南町)
田中 俊也		生命科学研究部門 ((株)神明水産)
大西 光		生命科学研究部門 (大西水産(有))
吉原 勇作		環境科学研究部門 (愛南町)
垣本 一真		環境科学研究部門 (愛南漁業協同組合)
廣瀬 琢磨		環境科学研究部門 (愛南町)
濱田 茂樹		環境科学研究部門 (愛南漁業協同組合)
山本 次郎		環境科学研究部門 (愛南漁業協同組合)
賀屋 啓太		環境科学研究部門 (愛南町)
日野出賢二郎		環境科学研究部門 (公益財団法人黒潮生物研究所)
藤本 吉信		社会科学研究部門 (愛南町)

濱 哲也
猪野啓士郎

社会科学研究部門（愛南町）
社会科学研究部門（愛南町教育委員会）

事務・技術職員

筒井 隆	副課長	船越ステーション（2023年1月から）
*西原 良顕	チームリーダー	船越ステーション（2023年1月から工学部事務課）
橋岡 千寿	事務補佐員	船越ステーション
馬場 千尋	事務補佐員	船越ステーション
日野 真成	事務補佐員	西浦ステーション
竹田 夏美	研究補助員	船越ステーション
近澤すおみ	研究補助員	船越ステーション
大野祥司郎	技術員	西浦ステーション
*清水 優子	研究補助員	西浦ステーション（2023年11月から(株)FBT）

2. 研究者要覧(専任・兼任教員, 特定教員・研究員, 客員教員, 2023年度)

専任教員

松原 孝博 Matsubara Takahiro

職 名：特命教授（生命科学研究部門）センター長

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本比較生理生化学会

専門分野：1. 水産増養殖学 2. 魚類繁殖生理学

研究課題：1. 養殖用新魚種スマの種苗生産・養殖技術の開発研究 2. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 3. 魚類の卵形成に関する生化学・分子生物学的研究 4. 魚類の受精における卵-精子相互作用に関する研究

後藤 理恵 Goto Rie

職 名：教授（生命科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

愛媛大学女性未来育成センター兼務センター員

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：魚類繁殖生理学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類性統御技術開発 5. 魚類借腹生産技術開発

斎藤 大樹 Saito Taiju

職 名：准教授（生命科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本動物学会

専門分野：1. 魚類発生学 2. 魚類発生工学

研究課題：1. スマの種苗生産・養殖技術の開発基盤研究 2. マグロ類の新育種技術開発 3. 地域有用水産生物の増養殖技術開発 4. 魚類発生工学技術開発

高木 基裕 Takagi Motohiro

職 名：教授（環境科学研究部門） 副センター長 地域連携推進室長

農学部 生物環境学科 環境保全学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）コース長

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本水産増殖学会 3. 日本魚類学会 4. 日本生物地理学会

専門分野：1. 水族保全学 2. 水産遺伝育種学

研究課題：1. 野生魚介類, 放流魚介類の保全・生態研究 2. 養殖魚介類の遺伝・育種研究

清水 園子 Shimuzu Sonoko

職 名：准教授（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 日本水産学会 2. 日本内分泌攪乱化学物質学会 3. 日本水産増殖学会

専門分野：1. 養殖環境学 2. 魚病学 3. 魚類生理学

研究課題：1. ICTを活用した赤潮・魚病対策に関する研究 2. 魚病発生メカニズムに関する研究
3. 赤潮発生メカニズムに関する研究

竹内 久登 Takeuchi Hisato

職 名：助教（環境科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース（兼任）

所属学会：1. 日本魚病学会 2. 日本水産学会

専門分野：1. 魚病学 2. 魚類免疫学

研究課題：1. 魚病病原体の検出手法に関する研究 2. 魚病細菌の性状に関する研究 3. 赤潮の
早期発見技術開発研究

若林 良和 Wakabayashi Yoshikazu

職 名：教授（社会科学研究部門）

理事・副学長（社会連携・人事マネジメント担当）

社会連携推進機構 機構長

社会共創学部産業イノベーション学科海洋生産科学コース（兼任）

農学部食料生産学専攻食料生産経営学コース（兼任）

大学院農学研究科食料生産学専攻水圏生産学コース（兼任）

大学院連合農学研究科生物資源生産学専攻食料経済学分野（兼任）

大学院人文社会科学研究科産業システム創成専攻環境・資源マネジメントコース
（兼任）

所属学会：1. 日本カツオ学会 2. 地域漁業学会 3. 漁業経済学会 4. 日本食育学会 5. 日本社会
学会 6. 日本文化人類学会 7. 日本民俗学会

専門分野：1. 水産社会学 2. カツオ産業文化論 3. ぎょしょく教育論（食育実践論） 4. 黒潮文
化論 5. 社会調査論

研究課題：1. 水産地域の社会構造（漁村社会の構造的アプローチ）に関する研究
2. 水産地域の生活文化（漁村生活の文化的アプローチ）に関する研究
3. 水産コミュニティを基盤とした産業振興と地域活性化に関する研究
4. 地域性と歴史性からみたカツオの産業と文化に関する研究
5. ぎょしょく教育（総合的水産版食育）・食育のコンテンツとメソッドに関する研究
6. 地域誌（史）の視点を重視した漁撈文化と漁場利用に関する研究
7. 水産業と漁村の多面的機能をもとにした地域水産振興システムの構築に関する研究
8. 定性分析に向けた質的調査としてのフィールドワークの技法と実践に関する研究

竹ノ内 徳人 Takenouchi Naruhito

職 名：教授（社会科学研究部門）

社会共創学部 産業イノベーション学科 海洋生産科学コース（兼任）

農学研究科 食料生産学専攻 水圏生産学コース・食料生産経営学コース（兼任）

連合農学研究科 生物資源生産学専攻（兼任）

所属学会：1. 漁業経済学会 2. 地域漁業学会 3. 日本沿岸域学会 4. 日本協同組合学会

専門分野：1. 水産経済・経営学 2. 水産物マーケティング論 3. 水産物ブランド論

研究課題：1. 養殖業経営に関する研究 2. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究 3. 水産物マーケティングに関する研究 4. 水産物のブランド化に関する研究

兼任教員

菅原 卓也 Sugahara Takuya

職 名：教授（農学研究科生命機能学専攻）

医農融合公衆衛生学環（兼任）

学長特別補佐

先端研究・学術推進機構 副機構長（学術企画室 室長）

農学研究科附属食品健康科学研究センター センター長

農学研究科附属柑橘産業イノベーションセンター六次産業化部門

学術支援センター センター長（兼任）

学術支援センター 遺伝子解析部門 部門長（併任）

地域協働センター西条（兼任）

地域協働センター中予（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

植物工場研究センター（兼任）

所属学会：1. 日本農芸化学会 2. 日本栄養・食糧学会 3. 日本食品科学工学会 4. 日本食品免疫学会 5. 日本アレルギー学会 6. 日本動物細胞工学会 7. The International Society for Nutraceuticals and Functional Foods (ISNFF)

専門分野：1. 食品機能学 2. 動物細胞工学

研究課題：1. 食品成分の保健機能評価と機能性食品開発に関する研究 2. 柑橘成分の抗アレルギー効果に関する研究 4. アカモクの保健機能に関する研究 3. 香辛料の抗炎症効果に関する研究 4. 機能性食品開発

今村 健志 Imamura Takeshi

職 名：教授（医学研究科分子病態医学講座）

副学長（広報担当）

広報室 室長

地域協働センター中予 センター長

先端医療創生センター 副センター長

プロテオサイエンスセンター（兼任）

南予水産研究センター生命科学研究部門（兼任）

地域レジリエンス学環（専任）

所属学会：1. 日本癌学会(評議員) 2. 日本がん分子標的治療学会(理事) 3. 日本骨代謝学会(評議員, あり方委員会委員) 4. 日本整形外科学会(専門医) 5. 日本分子生物学会
6. 日本生化学会 7. 米国骨代謝学会 (ASBMR)

専門分野：1. バイオイメージング 2. TGF- β のシグナル伝達 3. がんと骨の生物学

研究課題：1. 生体深部観察のための2光子励起顕微鏡の開発 2. 広範囲生体高速イメージングのための光シート顕微鏡の開発 3. がんモデルマウスとがんモデルメダカの開発
4. TGF- β ファミリーのシグナル伝達の解析 5. がん転移の分子メカニズムの解析
6. 骨代謝における BMP シグナル伝達の解析

高橋 学 Takahashi Manabu

職 名：教授(社会共創学部産業イノベーション学科)
理工学研究科生産環境工学専攻機械工学コース(兼任)
南予水産研究センター生命科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本機械学会 2. 日本材料学会 3. 日本複合材料学会 4. 中国・四国工学教育協会 5. 日本塑性加工学会

専門分野：1. 材料力学 2. 機械材料・材料加工

研究課題：1. 水産研究設備および養殖設備周辺技術の開発 2. デジタル技術を用いた水産業への応用

松枝 直人 Matsue Naoto

職 名：教授(農学研究科生物環境学専攻)
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 土壌肥料学会 2. 環境除染学会

専門分野：1. 環境保全学 2. 水圏環境学

研究課題：1. 土壌鉱物やゼオライトを利用した環境汚染物質の吸着除去 2. 途上国貧困層の飲料水の簡易浄化 3. 養魚場での赤潮被害を抑制する資材の開発

小林 真也 Kobayashi Shinya

職 名：教授(理工学研究科情報システム工学専攻)
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 情報処理学会 2. 電子情報通信学会 3. 電気学会 4. 日本工学教育協会 5. 日本感性工学会 6. 日本水産学会 7. IEEE 8. ACM

専門分野：1. 情報工学 2. 通信工学

研究課題：1. ICT(情報通信技術)の社会応用 2. 分散処理システムに関する研究

森本 昭彦 Morimoto Akihiko

職 名：教授(沿岸環境科学研究センター)
南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学 3. 衛星海洋学

研究課題：1. 東シナ海・日本海の物質循環 2. 豊後水道の底入り潮 3. 東南アジアの沿岸域の海洋環境変動

日向 博文 Hinata Hirofumi

職 名：教授（理工学研究科）

沿岸環境科学研究センター環境動態解析部門(兼任)

南予水産研究センター環境科学研究部門(兼任)

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 土木学会 4. 水産海洋学会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海岸工学

研究課題：1. 海洋マイクロプラスチック動態に関する研究 2. 海洋レーダーを用いた津波防災技術開発

客員教員

西永 豊光 Nishinaga Toyomitsu

職 名：客員教授（SEN KAI Food Service LLC 社長）

専門分野：1. 養殖魚の海外市場調査 2. 水産物のロジスティクス及び販売促進

武岡 英隆 Takeoka Hidetaka

職 名：客員教授，顧問

所属学会：1. 日本海洋学会 2. 日本海洋学会沿岸海洋研究会 3. 水産海洋学会

専門分野：1. 沿岸海洋学 2. 海洋物理学

研究課題：1. 沿岸海域の流動と物質輸送 2. 豊後水道の急潮と底入り潮 3. 養殖場の物質循環と環境保全

金尾 聡志 Kanao Satoshi

職 名：客員教授，顧問

所属学会：1. 地域漁業学会

専門分野：1. 漁業制度論 2. 産業イノベーション論（水産） 3. 水産経済・経営学

研究課題：1. スマ養殖経営収支モデルの作成 2. スマ養殖におけるビジネスモデルとプラットフォームに関する研究 3. 水産業と漁村地域の活性化に関する研究

3. 研究プロジェクト(専任教員, 特定教員・研究員, 2022年度)

松原孝博

【科研費】

1. 基盤研究 (B) 外来生殖細胞の宿主生殖腺への侵入・生着過程に関する研究. 1,000 千円 (分担)

【受託研究】

1. 愛媛県伊予の媛貴海養殖安定化技術開発. 親魚管理および出荷技術開発. 1,000 千円 (代表).

後藤理恵

【科研費】

1. 基盤研究 B: 紫外線照射による海産魚分離浮性卵の不妊化誘導. 令和 3 ~ 6 年度, 研究費 300 千円(分担).

【その他】

1. 令和 4 年度社会共創学部学部長裁量経費等によるプロジェクト: 水質浄化生物との共培養によるマガキガイ種苗生産技術開発, 研究費 943 千円 (代表).

斎藤大樹

【科研費】

1. 基盤研究 B: 紫外線照射による海産魚分離浮性卵の不妊化誘導. 令和 3 ~ 6 年度, 研究費 4,700 千円(代表).

【受託研究】

1. 愛南町 愛南町における新規養殖魚開発に係る研究開発. 令和 4 年度, 1540 千円 (代表)

高木基裕

【科研費】

1. 基盤研究 C: 絶滅危惧貝類ドロアワモチの生息環境・生態および分類に関する研究. 1,270 千円 (代表)

【受託研究】

1. イノベーション創出強化研究推進事業 応用研究ステージ クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発. 農林水産省, 2,000 千円 (分担)
2. 愛南町沿岸海域の漁場環境改善にかかる研究開発. 愛南町. 330 千円 (代表)

清水園子

【科研費等】

1. 基盤研究 C: 層状複水酸化物を用いた赤潮プランクトン除去に関する研究. 令和 4 年度~ 6 年度, 550 千円 (分担)

【受託研究】

1. 愛南町受託研究, 令和 4 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」, 2,350 千円 (代表)
2. 令和 4 年度水産庁委託漁場環境改善推進事業のうち栄養塩, 赤潮, 貧酸素水塊に対する被害軽

減技術等の開発「(2) 赤潮被害防止対策技術の開発」. 760 千円 (分担).

竹内久登

【科研費】

1. 若手研究：環境水を用いた非侵襲的な魚病検査手法の確立, 令和 3-5 年度, 2,340 千円 (代表)

【民間研究助成】

1. 公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団 2021 年度国内研究助成：環境 RNA の水生生物感染症検査への適用, 1,000 千円 (代表)

若林良和

【科研費】

1. カツオを題材とした水産版食育の実践的研究 – 「ぎょしょく」の体系化とツール開発–, 令和元年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C)・(一般), 960 千円 (2018 ~ 2022 年度：総額 4,160 千円), (代表)

竹ノ内徳人

【受託研究】

1. 令和 3 年度未来型農林水産研究プロジェクト推進事業のうち市場調査, 愛媛県, 780 千円

4. 研究成果(2022年度)

(兼任教員は水産関係の成果のみ記載)

生命科学研究部門

【著 書】

1. 斎藤大樹, 近藤総一郎, 松原孝博, 後藤理恵. 「多変量データセットによるスマの味解析」, 都甲潔編著, おいしさの科学とフードテック最前線, 株式会社シーエムシー出版, テクニカルレポートシリーズ, 395-402 (2022年8月)

【学協会誌】

1. Mitsuru Endoh, Ryuji Hazama, Keita Kaya, Yusuke Futamura, Sakurako Doi, Izumi Makinose, Dipak Pandey, Osamu Nishimiya, Miloš Havelka, Taiju Saito, Rie Goto, Takahiro Matsubara. Efficient Artificial Fertilization and Ovulated Egg Preservation in Kawakawa *Euthynnus affinis*. *J. Mar. Sci. Eng.*, 10, 599 (2022). <https://doi.org/10.3390/jmse10050599>.
2. Fatira E, Havelka M, Saito T, Landeira J, Rodina M, Gela D, Pšenička M. Intracytoplasmic sperm injection in sturgeon species: A promising reproductive technology of selected genitors. *Frontiers in Veterinary Science*. 2022 Dec 23; 9: 1054345.
3. Endoh M, Hazama R, Kaya K, Futamura Y, Doi S, Makinose I, Pandey D, Nishimiya O, Havelka M, Saito T, Goto R. Efficient Artificial Fertilization and Ovulated Egg Preservation in Kawakawa *Euthynnus affinis*. *Journal of Marine Science and Engineering*. 2022 Apr 28; 10(5): 599.
4. Shah MA, Fatira E, Iegorova V, Xie X, Gela D, Rodina M, Franěk R, Pšenička M, Saito T. Blastomeres derived from the vegetal pole provide extra-embryonic nutrition to sturgeon (*Acipenser*) embryos: Transition from holoblastic to meroblastic cleavage. *Aquaculture*. 2022 Mar 30; 551: 737899.

【報告書など】

1. 令和4年度社会共創学部学部長裁量経費等によるプロジェクト：水質浄化生物との共培養によるマガキガイ種苗生産技術開発報告書.2023年4月.

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. スマの肉質高品質化に向けた高度飼育・出荷技術開発. 第30回地域を活かす科学技術政策研修会. 令和5年2月24日. (オンライン).
2. 地域と共に成長するレジデント型研究～スマの取り組み事例を通して～. 四国人財育成塾シンポジウム. 令和5年2月10日. 愛媛大学南加記念ホール (松山).

環境科学研究部門

【学協会誌】

1. 高木基裕・山下知聡. 愛媛県御荘湾における絶滅危惧貝類ドロアワモチの分布様式. *水生動物* AA2022-7, 2022年5月
2. 高木基裕・木村 真・坂口秀雄. 飼育下におけるマダコの交接行動と複数父性. *水産増殖* 70, 131-140, 2022年8月

【その他の雑誌】

1. 福垣内 暁, 丸山 颯己, 竹内 久登, 清水 園子. 銅イオン担持ガラス繊維シートによる有害植物プランクトンの殺藻効果. *愛媛大学社会共創学部紀要* 6(2) 22-29, 2023

【報告書など】

1. 基盤研究 C：絶滅危惧貝類ドロアワモチの生息環境・生態および分類に関する研究. 令和 4 年度報告書
2. 農林水産省 イノベーション創出強化研究推進事業 応用研究ステージ クルマエビの耐病性品種の育成と管理に関する技術開発. 令和 4 年度報告書
3. 愛南町 令和 4 年度漁場環境改善事業 愛南町沿岸海域の漁場環境改善に係る研究開発 受託成果報告書
4. 清水園子, 愛南町受託研究 令和 4 年度「愛南町沿岸海域の環境調査および赤潮・魚病早期検出とモニタリングに係る研究開発」報告書, 2023 年 3 月
5. 清水園子, 令和 4 年度水産庁委託漁場環境改善推進事業のうち栄養塩, 赤潮, 貧酸素水塊に対する被害軽減技術等の開発「(2) 赤潮被害防止対策技術の開発」. 報告書 2023 年 3 月

【学会発表, 各種講演・報告など】

1. 高木基裕・青木萌子・佐藤琢・菅谷琢磨. クルマエビ育成期の飼育密度および給餌間隔の影響. 令和 4 度日本水産学会秋季大会, 9 月, 講演要旨集: 25. (2022)
2. 高木基裕・三浦天伸. 胎生魚ウミタナゴの飼育下での出産. 令和 4 度日本水産学会秋季大会, 9 月, 講演要旨集: 12. (2022)
3. 澤山英太郎・田内哲平・山崎藤子・藤原成晴・高木基裕. マダイの系統識別を目的とした一塩基パネルの開発. 令和 4 度日本水産学会秋季大会, 9 月, 講演要旨集: 20. (2022)
4. 藤原成晴・田内哲平・山崎藤子・高木基裕・澤山英太郎. 日本近海に生息するマダイの集団遺伝構造. 令和 5 度日本水産学会春季大会, 3 月, 講演要旨集: 71. (2023)
5. 清水園子, 愛媛県漁業協同組合「赤潮研修会」報告. 愛媛県漁協漁業研修センター, 宇和島市, 2022 年 6 月 28 日
6. 竹内久登, 原川翔伍, 清水園子, 川上秀昌: 感染死亡魚を介したマダイエドワジエラ症の蔓延に関する研究. 令和 5 年度日本魚病学会春季大会, 2023 年 3 月
7. 竹内久登, 山中裕樹, 釣健司, 原川翔伍, 川上秀昌, 清水園子: エドワジエラ菌感染により発現変化するマダイ飼育水中環境 RNA の探索. 令和 4 年度日本魚病学会秋季大会, 2022 年 9 月

社会科学研究部門

【著 書】

1. 竹ノ内徳人. ガバナンスとは, とにかく何?. 水面上の生命 (原著: Life Above Water: スウェイン・イェントフト著, 2019). 169-178. 李銀姫・浪川珠乃 編訳. TBTI Global. セントジョンズ. カナダ. 2022 年.

【その他の雑誌】

1. 若林良和: 鹿児島県奄美大島北部におけるカツオの産業と文化 —「ぎょしょく」をもとにした地域モノグラフ (7) —. 愛媛大学社会共創学部紀要 6(2): 30 — 46 (2022.09)
2. 若林良和: 無限の可能性を持つ女子高等教育: 更なる「たおやかさ」を拓くために (松山東雲女子大学開学 30 周年記念・特別寄稿). 松山東雲女子大学 32: 26-28 (2023.03)
3. 西永豊光・竹ノ内徳人・松原孝博・金尾聡志. 愛媛県産スマの北米へのロジスティクスと評価. 養殖ビジネス. 59(11). 15-19. 2022 年 10 月.
4. 竹ノ内徳人. 漁業制度改革を背景としたアフターコロナに向けた地域漁業の展望. 農中総研情報. 91. 16-17. 2022 年 7 月.

【報告書など】

1. 若林良和: 「ぎょしょく教育」の DX で日本の水産業を持続可能な成長産業へ!. 電気ふる

さと Vol.69 : 8 - 11 (2022.09)

2. 若林良和：成果報告書の刊行によせて：地域専門人材育成の重要性。令和4年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（東予）＜令和3年度補正予算 文部科学省 DX 等成長分野を中心とした就職・転職のためのリカレント教育推進事業＞成果報告書。愛媛大学社会連携推進機構：1（2023.03）
3. 竹ノ内徳人。愛媛県産ハタ類における流通ならびに需要動向に関する調査報告書。愛媛県令和4年度未来型農林水産研究プロジェクト推進事業。愛媛大学南予水産研究センター。1-15。2023年3月31日。

【学会発表，各種講演・報告など】

1. 若林良和：愛媛大学の社会連携推進と観光人材育成。2022年度産学官連携観光産業振興協議会記念講演会，東京第一ホテル松山，2022年6月15日。
2. 若林良和：日本のカツオ文化とカツオ資源についてー地域と生活の視点からカツオ文化とカツオ資源を考える！ー。JICA（国際協力機構）青年研修「資源管理型漁業」コースセミナー，JICA（リモート），2022年11月9日。
3. 若林良和：地域×産業イノベーションによる持続可能な共創社会の実現に向けて ～愛媛大学のリカレント教育について～。国立大学協会令和4年度大学マネジメントセミナー「これからのリカレント教育」，国大協（リモート），2022年11月22日。
4. 若林良和：農政局と愛媛大学が連携した取組について ～愛媛大学のビジョンと社会連携～。農林水産省中国四国農政局（岡山），2023年2月17日。
5. 若林良和：地域と「共進」する愛媛大学を目指してー愛媛大学のビジョンと社会連携推進機構の取組をもとにー。愛媛経済懇話会3月定例会，ANAクラウンプラザホテル松山，2023年3月16日
6. 若林良和：愛媛大学地域協働センター中予東温開所式 閉会挨拶。愛媛大学地域協働センター中予東温，2022年4月7日。
7. 若林良和：愛媛大学地域協働教育研究支援事業（令和3年度）成果報告会 開会挨拶。愛媛大学愛媛大学 E.U. Regional Commons（リモート），2022年7月7日。
8. 若林良和：国立大学法人愛媛大学と公益財団法人松山市文化・スポーツ振興財団との包括連携に関する記念講演会 開会の挨拶。愛媛大学南加記念ホール，2022年8月29日。
9. 若林良和：愛媛大学のビジョン・戦略・取組について。令和4年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（南予），愛媛大学地域協働センター南予&リモート，2021年9月3日。
10. 若林良和：愛媛大学のビジョン・戦略・取組について。令和4年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム（東予），愛媛大学地域協働センター西条，2021年9月24日。
11. 若林良和：愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センターシンポジウム 2022「全世代の人材が活躍する社会」の構築につながるリカレント教育の推進に向けて 開会挨拶。愛媛大学地域専門人材育成・リカレント教育支援センター（リモート），2022年9月27日
12. 若林良和：愛媛大学紙産業イノベーションセンター第7回シンポジウム「新たな技術や新製品を愛媛から全国へ！そして，世界へ！発信する」 閉会挨拶。四国中央市市民文化ホール，2022年10月17日
13. 若林良和：愛媛大学社会共創フォーラム 2022 開会挨拶。愛媛大学グリーンホール，2022年10月24日
14. 若林良和：愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター公開講演会・研究集会 開会挨拶。愛媛大学南加記念ホール&リモート，2022年10月29日
15. 若林良和：愛媛大学社会連携推進機構協力会特別講演会「カーボンニュートラル社会の実現

- に向けて」 閉会挨拶. ANA クラウンプラザホテル松山, 2022 年 11 月 28 日
16. 若林良和: 人口減少社会に挑む! フォーラム 2022 開会挨拶. 愛媛大学 E.U. Regional Commons, 2022 年 12 月 10 日
 17. 若林良和: 愛媛大学農学部・大学院農学研究科×農林水産省中国四国農政局 第 2 回愛媛の食農の未来とイノベーションシンポジウム 2022 閉会挨拶. 愛媛大学農学部・大学院農学研究科&リモート, 2022 年 12 月 17 日
 18. 若林良和: 地域のインフラメンテナンスの明日を考えるシンポジウム: 愛媛大学社会基盤 ME 養成講座の開講 10 年を前にして 閉会挨拶. 愛媛大学南加記念ホール&リモート, 2023 年 1 月 13 日
 19. 若林良和: 四国人財育成塾シンポジウム「全世代対応型「地域における知の拠点」として大学はどうあるべきか 閉会挨拶. 愛媛大学南加記念ホール&リモート, 2023 年 2 月 10 日
 20. 若林良和: 令和 4 年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム (南予) 閉講式挨拶. 愛媛大学 (リモート), 2023 年 2 月 18 日
 21. 若林良和: 令和 4 年度愛媛大学地域創生イノベーター育成プログラム (東予) 閉講式挨拶. 愛媛大学地域協働センター西条, 2023 年 2 月 18 日
 22. 若林良和: シンポジウム「人口減少社会と文化遺産の未来」 閉会挨拶. 愛媛大学メディアホール, 2023 年 2 月 23 日
 23. 若林良和: 愛媛大学公開シンポジウム「カーボンニュートラル実現に向けて」 閉会挨拶. 愛媛大学南加記念ホール, 2023 年 3 月 9 日
 24. Takenouchi Naruhito. Providing topics about “Shopping at Fisheries Direct Sales Market”. The 4th World Small-Scale Fisheries Congress (4WSFC) Asia-Pacific. 静岡県清水市. 2022 年 5 月 11 日.
 25. 松村俊吾・竹ノ内徳人. 北海道枝幸町における沿岸漁業の共同体基盤型管理とその構造比較ー第一種共同漁業に注目してー. 地域漁業学会第 64 回大会一般報告. 三重大学 (オンライン). 2022 年 11 月 13 日.
 26. 竹ノ内徳人. ポストコロナを見据えた八幡浜水産業の展望. 令和 4 年度八幡浜経済研究会 11 月例会. 八幡浜市. 2022 年 11 月 30 日.
 27. 竹ノ内徳人. 愛媛県産養殖マダイの流通. 南海放送ラジオ Tips 今夜なに食べる. 南海放送ラジオ. 松山市. 2022 年 12 月 2 日.
 28. 竹ノ内徳人. 水産物の流通・販売. 愛媛大学水産人材育成講座ー基礎編・水産学概論ー. 愛媛大学南予水産研究センター. 2023 年 1 月 21 日.
 29. 竹ノ内徳人. 水産経済・経営ー令和 3 年度版水産白書よりー. 愛媛大学水産人材育成講座ー基礎編・水産学概論ー. 愛媛大学南予水産研究センター. 2023 年 2 月 18 日.

兼任教員 (水産関係の成果のみ記載)

小林真也

【学会発表・各種講演・報告など】

1. 山磨 虎多郎, 遠藤 慶一, 黒田 久泰, 小林 真也: "2 台のカメラを用いた遊魚三次元位置測定における擬検出抑止法の提案," 情報処理学会第 85 回全国大会, 東京, 3 月 2-4 日, 2023.
2. 山西 順也, 遠藤 慶一, 黒田 久泰, 小林 真也: "遊魚三次元位置測定における高精度フレーム同期手法の提案," 情報処理学会第 85 回全国大会, 東京, 3 月 2-4 日, 2023.
3. 小林真也: 宇和海海況情報サービス You See U-Sea 養殖を支える ICT, サイエンティフィック

森本昭彦

【学協会誌】

1. Morimoto, A., Dong, M., Kameda, M., Shibakawa, T., Hirai, M., Takejiri, K., Guo, X. and Takeoka, H. (2022): Enhanced cross-shelf exchange between the Pacific Ocean and the Bungo Channel, Japan related to a heavy rain event. *Frontier in Marine Science*, 9, 869285. <https://doi.org/10.3389/fmars.2022.869285>.

【学会発表】

1. 森本昭彦・山岡 蓮・徳田眞太郎 (2022) : 豊後水道の急潮と底入り潮の季節・経年変化. *Geoscience Union Meeting 2022*, 千葉, 5 月.
2. Leng Q., Guo X., Morimoto A., (2022) : 瀬戸内海における外洋起源硝酸塩流入フラックスと硝酸塩現存量に占める割合. 日本海洋学会秋季大会, 名古屋, 9 月.
3. 森本昭彦・前谷佳奈・大西秀次郎・徳田眞太郎・郭 新宇 (2022) : 係留観測と船舶観測による豊後水道の底入り潮の進入過程の解明. 日本海洋学会秋季大会, 名古屋, 9 月, 22F-08-22.

5. 学会及び審議会・委員会等の活動(専任教員・2022年度)

松原孝博

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 浜の活力再生プラン 愛南地区地域水産業再生委員会委員
2. 愛南町ぎょしょく教育普及委員
3. 環境省 化学物質の内分泌かく乱作用に係る試験法の確立等に関する検討委員
4. 農林水産省 イノベーション創出強化研究推進事業開発研究ステージ評議委員
5. 愛南漁業協同組合 非常勤監事

後藤理恵

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛南町ぎょしょく教育普及進協議会委員
2. 愛媛県立南宇和高等学校評議員
3. 水産政策審議会企画部会特別委員
4. 農業資材審議会飼料分科会飼料安全部会委員
5. 日本学術振興会特別研究員審査委員
6. 清心女子中高等学校 SSH 運営委員

高木基裕

【学協会役職(理事・委員等)】

1. 水産育種研究会幹事
2. 日本水産学会水産増殖懇話会委員
3. 日本水産増殖学会評議員
4. 水生動物編集委員

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛海区漁業調整委員会委員
2. 愛媛県科学技術振興会議農林水産評価専門部会委員
3. 愛媛県レッドリスト改訂分科会員
4. 愛媛県アコヤガイへい死対策協議会専門部会委員
5. 四国西予ジオミュージアム展示内容検討委員会委員

清水園子

【併任, 各種審議会・委員会委員等】

1. 2021 年度水産動物防疫体制整備モデル事業 愛南町養殖魚類防疫体制整備協議会プログラム作成委員
2. 水産用医薬品調査会委員

若林良和

【学協会役職(理事・委員等)】

1. 日本カツオ学会顧問

2. 地域漁業学会理事
3. 漁業経済学会理事
4. 日本食育学会理事
5. 日本食育学会学会誌編集委員会委員

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 水産庁民間団体補助金交付候補者選定審査委員会委員
2. 一般社団法人国立大学協会・一般社団法人日本経済団体連合会「採用と大学教育の未来に関する産学協議会・産学連携推進分科会委員
3. 一般財団法人四国産業・技術振興センター四国産業技術大賞選考審査会選考審査員
4. 公益財団法人えひめ産業振興財団理事
5. 公益財団法人えひめ地域活力創造センター評議員
6. 一般社団法人えひめベンチャー支援機構理事
7. 愛媛県人口問題総合戦略推進会議委員
8. えひめ地域活性化雇用創造協議会委員（2022年8月まで）
9. 愛媛県松山圏域活性化戦略会議委員
10. 愛媛県愛南町ぎょしょく普及推進協議会委員
11. 愛媛県愛南町食育推進協議会委員
12. 愛媛県愛南町食育協働部会副会長
13. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定推進協議会委員
14. 鹿児島県枕崎市枕崎カツオマイスター検定委員会委員長
15. 鹿児島県指宿市山川水産加工業協同組合女性部顧問
16. 株式会社テレビ愛媛番組審議会委員

竹ノ内徳人

【学協会役職（理事・委員等）】

1. 漁業経済学会理事
2. 地域漁業学会理事ならびに学会誌編集委員会委員長

【併任，各種審議会・委員会委員等】

1. 愛媛県・愛媛海区漁業調整委員会・委員
2. 河原学園教務委員会・委員
3. 徳島県・県有種苗生産施設有効活用実践事業プロポーザル審査委員会・委員長
4. 松山市公設水産地方卸売市場運営審議会 委員

6. 教育活動(専任教員・2022年度)

松原孝博

【指導学生】

社会共創学部学生 (4年生) : 3名

大学院農学研究科・修士課程

(主指導) : 1名

(副指導) : 2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 3件

- ・スマ借腹魚の小規模飼育のための流水水槽システム, 初期中間育成生簀の改良
- ・電気麻酔による不動化技術の開発および血液診断による性判別, 成熟度判定
- ・マダイおよびスマを対象とした水質汚濁防止型飼料の開発

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前学期, 水産生物環境学, 社会共創学部
2. 前学期, 養殖学, 社会共創学部
3. 前学期, 水産生物学 (主担), 社会共創学部
4. 前学期, 海洋生産科学 I (主担), 社会共創学部
5. 前学期, 海洋生産科学セミナー I (分担), 社会共創学部
6. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 社会共創学部
7. 前学期, 産業経済論 (分担), 社会共創学部
8. 後学期, 産業イノベーションセミナー I (主担), 社会共創学部
9. 前学期, プロジェクト基礎演習 (主担), 社会共創学部
10. 前学期, プロジェクト実践演習 (主担), 社会共創学部
11. 後学期, プロジェクト応用演習 (主担), 社会共創学部
12. 後学期, 地域産業調査 (分担), 社会共創学部
13. 前学期集中, 産業技術調査 (分担), 社会共創学部
14. 後学期, 海洋生産科学概論 (主担), 社会共創学部
15. 後学期, 新入生セミナー B (分担), 社会共創学部
16. 前学期集中, 社会共創演習 I (分担), 社会共創学部
17. 集中, インターンシップ実践 (分担), 社会共創学部
18. 集中, インターンシップ応用 (分担), 社会共創学部
19. 集中, 次世代水産イノベーション論 (主担), 社会共創学部
20. 通年, 卒業研究 (主担), 社会共創学部
21. 後学期, 水圏生命科学 I (主担), 大学院農学研究科
22. 前学期集中, 水圏生命科学 II (分担), 大学院農学研究科
23. 集中, 水圏生産学演習 I (分担), 大学院農学研究科
24. 集中, 水圏生産学実験 I (分担), 大学院農学研究科
25. 集中, 水圏生産学演習 II (分担), 大学院農学研究科
26. 集中, 水圏生産学実験 II (分担), 大学院農学研究科

後藤理恵

【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：3名，（3年生）：2名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：1名

（副指導）：3名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：3件

- ・アオリイカの種苗生産に向けた初期給餌技術及び輸卵管腺に関する研究
- ・マダイ生殖系列キメラ作出に向けた研究
- ・魚類生殖腺の保存条件および生殖細胞の生残率

修士論文：1件

- ・スマ *Euthynnus affinis* の活締め方法の最適化および保存時の肉質経時変化

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，海洋生産科学Ⅰ（主担），社会共創学部
2. 前学期，海洋生産科学Ⅱ（主担），社会共創学部
3. 前学期，海洋生産科学セミナーⅠ（主担），社会共創学部
4. 前学期，海洋生産科学セミナーⅡ（主担），社会共創学部
5. 前学期，水圏生産学特論（分担），社会共創学部
6. 後学期，水族生理学（主担），社会共創学部
7. 後学期，産業イノベーションセミナーⅠ（分担），社会共創学部
8. 前学期，プロジェクト基礎演習（分担），社会共創学部
9. 前学期，プロジェクト実践演習（主担），社会共創学部
10. 後学期，プロジェクト応用演習（分担），社会共創学部
11. 前学期集中，産業技術調査（分担），社会共創学部
12. 後学期集中，水産科学論Ⅳ（主担），社会共創学部
13. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
14. 後学期，生物学（分担），社会共創学部
15. 前学期集中，社会共創演習Ⅰ（分担），社会共創学部
16. 前学期集中，社会共創演習Ⅱ（分担），社会共創学部
17. 集中，インターンシップ実践（分担），社会共創学部
18. 集中，インターンシップ応用（分担），社会共創学部
19. 集中，次世代水産イノベーション論（分担），社会共創学部
20. 前学期集中，水圏生命科学Ⅱ（主担），大学院農学研究科
21. 集中，水圏生産学演習Ⅰ（分担），大学院農学研究科
22. 集中，水圏生産学実験Ⅰ（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学演習Ⅱ（分担），大学院農学研究科
24. 集中，水圏生産学実験Ⅱ（分担），大学院農学研究科

【その他】

1. R4年度 愛媛県立南宇和高等学校総合課題研究水産担当教員.

斎藤大樹

【指導学生】

社会共創学部学生（4年生）：1名

大学院農学研究科・修士課程

（主指導）：2名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文：1件

・養殖マダイにおける慢性ストレスが品質形質へ与える影響

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，海洋生産科学1（分担），社会共創学部
2. 前学期，海洋生産科学2（分担），社会共創学部
3. 前学期，プロジェクト実践演習（分担），社会共創学部
4. 前学期，水産生物環境学（分担），社会共創学部
5. 前学期，産業イノベーションセミナー（分担），社会共創学部
6. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
7. 後学期，新入生セミナーB（分担），社会共創学部
8. 後学期，生物学（分担），社会共創学部
9. 後学期，プロジェクト応用演習（分担），社会共創学部
10. 集中，次世代水産イノベーション論（分担），社会共創学部
11. 集中，水圏生命科学1（分担），社会共創学部
12. 集中，社会共創演習1（分担），社会共創学部
13. 集中，産業技術調査（分担），社会共創学部
14. 集中，プロジェクト基礎演習（分担），社会共創学部
15. 集中，水産科学論1（主担），社会共創学部
16. 通年，卒業研究（主担），社会共創学部
17. 通年，海洋生産科学セミナー1（分担），社会共創学部
18. 前学期，水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科
19. 前学期，養殖技術論（分担），大学院農学研究科
20. 後学期，水圏生命科学I（分担），大学院農学研究科
21. 集中，水圏生産学演習I（分担），大学院農学研究科
22. 集中，水圏生産学実験I（分担），大学院農学研究科
23. 集中，水圏生産学演習II（分担），大学院農学研究科
24. 集中，水圏生産学実験II（分担），大学院農学研究科

高木基裕

【指導学生】

大学院連合農学研究科・博士課程

（副指導）：2名

【担当授業科目（本学関係）】

1. 通年，環境保全セミナー，農学部
2. 通年，水族保全学実習，農学部
3. 通年，卒業論文，農学部

4. 後学期, 生物学 (分担), 農学部
5. 後学期, 環境保全学概論 (分担), 農学部
6. 後学期, 水産生物学, 農学部・社会共創学部
7. 後学期, 環境分子生物学 (分担), 農学部・社会共創学部
8. 後学期, 環境保全学実験 III (分担), 農学部
9. 前学期, 水圏生産学特論 (分担), 大学院農学研究科
10. 通年, 食料生産学特別演習, 大学院農学研究科
11. 通年, 食料生産学特別実験・実習, 大学院農学研究科
12. 通年, 水圏生産学演習 I, 大学院農学研究科
13. 通年, 水圏生産学実験 I, 大学院農学研究科
14. 通年, 水圏生産学演習 II, 大学院農学研究科
15. 通年, 水圏生産学実験 II, 大学院農学研究科
16. 後学期, 外書購読, 大学院農学研究科
17. 後学期, 水圏環境科学 I, 大学院農学研究科
18. 前学期, 海洋生産科学概論 (分担), 社会共創学部
19. 前学期, 海洋生産科学 I, (分担), 社会共創学部
20. 前学期, 海洋生産科学 II, (分担), 社会共創学部

清水園子

【指導学生】

社会共創学部学生 (4 年生) : 3 名

【卒業論文・修士論文・博士論文】

卒業論文 : 3 件

- ・エドワジエラ菌感染を検出するマダイマイクロ RNA の探索
- ・エドワジエラ菌感染に伴うマダイ mRNA の体内挙動
- ・愛南町養殖海域に生息する赤潮殺藻細菌 *Kordia* sp. の特性に関する研究

【担当授業科目 (本学関係)】

1. 前期 養殖環境保全学 (分担) 社会共創学部
2. 前期 産業技術調査 (分担) 社会共創学部
3. 前期 プロジェクト実践演習 (分担) 社会共創学部
4. 前期 海洋生産科学 I (分担) 社会共創学部
5. 前期 海洋生産科学 II (分担) 社会共創学部
6. 前期 海洋生産科学セミナー I (分担) 社会共創学部
7. 前期 産業イノベーションセミナー II I (分担) 社会共創学部
8. 後期 海洋生産科学概論 (分担) 社会共創学部
9. 後期 プロジェクト基礎演習 (分担) 社会共創学部
10. 後期 プロジェクト応用演習 (分担) 社会共創学部
11. 後期 産業イノベーションセミナー I (分担) 社会共創学部
12. 後期 水産科学論 II 社会共創学部
13. 通年 インターンシップ実践 (分担) 社会共創学部
14. 通年 インターンシップ応用 (分担) 社会共創学部

15. 通年 社会共創演習Ⅰ（分担）社会共創学部
16. 通年 社会共創演習Ⅱ（分担）社会共創学部
17. 後期 海洋生産科学セミナーⅡ（分担）社会共創学部
18. 集中 次世代水産イノベーション論（分担），社会共創学部
19. 前期 水圏生産学特論（分担），大学院農学研究科
20. 後期 水圏環境科学Ⅱ，大学院農学研究科
21. 通年 水圏生産学演習Ⅰ 大学院農学研究科
22. 通年 水圏生産学実験Ⅰ 大学院農学研究科
23. 通年 水圏生産学演習Ⅱ 大学院農学研究科
24. 通年 水圏生産学実験Ⅱ 大学院農学研究科

若林良和

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，水産社会学，社会共創学部
2. 前学期，水産社会論，農学部
3. 後学期，水産社会学，大学院農学研究科（食料生産経営学コース）
4. 後学期，水圏社会科学Ⅰ，大学院農学研究科（水圏生産学コース）
5. 後学期，水産社会論1・2，大学院人文社会科学研究所（環境・資源マネジメントコース）

【他大学等での講義】

1. 高知大学教育学部（社会学概論・社会学，集中）
2. 高知大学医学部（家族社会学，集中）
3. 松山大学人文学部・経済学部・経営学部・法学部（文化人類学，通年）
4. 松山看護専門学校（文化人類学，後学期）
5. JICA 青年研修「資源管理型漁業コース」（日本のカツオ産業文化論，集中）

竹ノ内徳人

【指導学生】

大学院連合農学研究科・博士課程

（主指導）：1名

【担当授業科目（本学関係）】

1. 前学期，こころと健康，共通教育
2. 前学期，専攻セミナーⅠ，農学部
3. 前学期，農学実習ⅠB，農学部
4. 前学期，基礎農業経営経済学（分担）2年生，農学部
5. 前学期，水産社会科学演習（分担），農学部
6. 前学期，海域社会経済論，農学部
7. 前学期，水産経済論，社会共創学部
8. 前学期，海洋生産科学Ⅰ
9. 前学期，海洋生産科学Ⅱ
10. 後学期，食品マーケティング論，農学部
11. 後学期，海洋生産科学概論（分担），社会共創学部
12. 後学期，専攻セミナーⅡ，農学部

13. 前学期, 食料生産経営学演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
14. 前学期, 食料生産経営学Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
15. 前学期, 食料生産経営学演習Ⅲ (分担), 大学院農学研究科
16. 前学期, 食料生産経営学特別演習Ⅰ (分担), 大学院農学研究科
17. 前学期, 食料生産経営学Ⅲ (分担), 大学院農学研究科
18. 前学期, 海洋生産科学研究 (分担), 大学院農学研究科
19. 後学期, 海域社会論, 大学院農学研究科
20. 後学期, 水圏社会科学, 大学院農学研究科
21. 後学期, 食料生産経営学演習Ⅱ (分担), 大学院農学研究科
22. 後学期, 食料生産経営学Ⅳ (分担), 大学院農学研究科
23. 通年, 食料生産経営学ケーススタディ (分担), 大学院農学研究科

【他大学等での講義】

- ・松山短期大学 「食品マーケティング論Ⅰ・Ⅱ」(通年)

7. 地域・社会連携活動(2022年度)

(1) シンポジウム, 講座, 講演会, 展示等の開催(主催, 共催, 後援等)

1. 愛媛大学水産人材育成講座—基礎編・水産学概論—

【I. 海と生物(基礎)】(10月15日)

- 生物生産環境：海の流れと基礎生産, 食物連鎖, 基礎生産のメカニズム

南予水産研究センター

顧問・客員教授 武岡英隆

- 水域環境保全：富栄養化, 環境微生物, 水域汚染

南予水産研究センター 准教授 清水園子

- 水産生物：水産魚介類の分類および生理・生態

南予水産研究センター 教授 高木基裕

【II. 水産増養殖1(概論)】(11月19日)

- 遺伝と育種：水産資源の放流・遺伝的管理及び育種

南予水産研究センター 教授 高木基裕

- 水産増殖：水産増殖の実例

南予水産研究センター 教授・センター長 松原孝博

- 水産養殖：養殖方式の分類および主要養殖種

南予水産研究センター 准教授 後藤理恵

【III. 水産増養殖2(実践)】(12月17日)

- 養殖技術：養殖生産技術

南予水産研究センター 准教授 後藤理恵

- 栄養と飼料：養殖魚の栄養と飼料

南予水産研究センター 准教授 斎藤大樹

- 赤潮・魚病：有害毒プランクトン, 魚病

南予水産研究センター 准教授 清水園子

【IV. 利用加工・消費】(1月21日)

- 水産化学・生化学：魚介類の生体成分

南予水産研究センター 准教授 斎藤大樹

- 水産物の利用・加工：水産加工, 冷凍・冷蔵, 水産食品衛生

元愛媛県産業技術研究所 所長 水産学博士 平岡芳信

- 水産物の流通・販売：水産物流通, 商品開発, 販売, 消費, 地域貢献

南予水産研究センター 准教授 竹ノ内徳人

【V. 水産経済・水産法規】(2月18日)

- 漁業制度と水産法規：漁業権, 漁業許可, 資源管理制度, 水産法規

南予水産研究センター 顧問・客員教授 金尾聡志

- 漁業と資源管理：漁船漁業と資源管理の基礎

南予水産研究センター 教授・センター長 松原孝博

- 水産経済・経営：水産政策, 水産経済, 水産経営

南予水産研究センター 准教授 竹ノ内徳人



2. 第1回南予水産地域研究交流会（主催：南予水産研究センター地域連携推進室，共催：愛南町南町，愛南漁業協同組合，久良漁業協同組合）2月12日
南予水産研究センター，愛南町，愛媛県水産研究センター，南予地域の5高校（南宇和高校，宇和島南中等教育学校，宇和島東高校，宇和島水産高校，長浜高校）が参加するポスター形式の研究発表会（参加約100名）

発表演題

<高校>

カクレクマノミのダンスの秘密～黄色と黒のシマシマは警戒の合図～

増田 温樹（長浜高校）

地域の廃棄物を利用した浄化装置とその有効性

伊藤 樹生・兵頭 玲勇・近平 まるこ・清水 遥（宇和島東高校）

神田川（じんでんがわ）の水質と生物Ⅲ～新たな指標生物を探せ～

渡部 ひとみ・河野 紗良・兵頭 綺・宮本 陽菜（宇和島東高校）

トキワバイカツツジの稚樹の生育環境の調査とその保全

濱見 晴丘・小川 健太・高平 こころ・稲田 美優・久能 大河・

高田 悠生・田村 優芽（宇和島東高校）

音が魚に与える影響についての研究

清家 爽和・林真綾・西川 璃杏・倉田 古都（南宇和高校）

においが魚に及ぼす影響についての研究

小泉 颯人・和田 隼治・宮元 愛果（南宇和高校）

海藻を植えると世界が平和に！

竹葉 晴子・長井 隆一郎・竹葉 拓実（宇和島南中等教育学校）

アジの養殖について

松本 昌己・松下 歩叶・別府 雪乃（宇和島南中等教育学校）

救え！カワヤツメーアンモシーテス幼生の飼育日記ー

山本 心優（宇和島水産高校）

タビエビ・プロジェクト

富永 英恵・水田 唯・水野 晃秀（宇和島水産高校）

<大学・大学院>

スマ借腹魚の小規模飼育のための流水水槽システム，初期中間育成生簀の改良

伊井 洗晶（愛媛大社会共創学部）

電気麻酔による不動化技術の開発および血液診断による性判別，成熟度判定

宇佐美 公基（愛媛大社会共創学部）

アオリイカの種苗生産に向けた初期給餌技術および輸卵管腺に関する研究

木村 瞭太（愛媛大社会共創学部）

エドワジエラ菌感染を検出するマダイマイクロRNAの探索

小山 絵凧（愛媛大社会共創学部）

養殖マダイにおける慢性ストレスが品質形質へ与える影響

志賀 太一（愛媛大社会共創学部）

マダイ生殖系列キメラ作出に向けた研究

土居 さくら子（愛媛大社会共創学部）

エドワジエラ菌感染に伴うマダイ mRNA の体内挙動

野口 実来（愛媛大社会共創学部）

マダイおよびスマを対象とした水質汚濁防止型飼料の開発

中山 裕実子（愛媛大社会共創学部）

魚類生殖腺の保存条件および生殖細胞の生残率

牧之瀬 出海（愛媛大社会共創学部）

愛南町養殖海域に生息する赤潮殺藻細菌 *Kordia* sp.の特性に関する研究

三谷 宗将（愛媛大社会共創学部）

スマ *Euthynnus affinis* の活締め方法の最適化および保存時の肉質経時変化

西尾 莉久（愛媛大大学院農学研究科）

<一般>

愛南町のブルーカーボンの取り組み

清水 陽介（愛南町水産課）

愛南町スマート水産業推進事業について

吉原 勇作（愛南町水産課）



ポスター発表



施設見学

3. 第 13 回愛南町水産フォーラム「持続可能な水産業を目指して～漁場環境を守るための事業展開～」3月25日（共催）

4. 南水研卒論・修論公开发表会，試験魚介類の供養祭および愛南町からの卒業・修了記念品贈呈
2月27日



卒論・修論発表会



魚介類供養祭

(2) 地域特別研究員との共同研究

研究題目

新規養殖品種の開発

スマ養殖

水産物養殖技術の開発

地域特別研究員

清水 陽介

田中 俊也

大西 光

受入教員

松原 孝博

松原 孝博

松原 孝博

魚類養殖現場で発生する病気について	吉原 勇作	清水 園子
魚類養殖現場で発生する病気について	垣本 一真	清水 園子
リアルタイム PCR によつアコヤガイビルナウイルス 感染状況の調査	賀屋 啓太	清水 園子
四国南西海域における植物プランクトン相の把握	日野出賢二郎	清水 園子
アコヤガイ種苗生産	廣瀬 琢磨	高木 基裕
優良アコヤガイ作出に係る技術開発	濱田 茂樹	高木 基裕
優良アコヤガイ作出に係る技術開発	山本 次郎	高木 基裕
「ぎょしょく」を基盤にした水産振興の研究	高橋 裕司	若林 良和
漁村における地域文化の研究	藤本 吉信	若林 良和
学校教育の視点から考える「ぎょしょく教育」と 地域理解教育の関係性	猪野啓士郎	若林 良和
町内水産物の販売促進およびブランド化の研究	濱 哲也	竹ノ内徳人

(3) 地域連携教育

1. 愛南町ぎょしょく教育授業（小学生対象）

- ・ちりめんモンスターを探せ，（松原主担当，社会共創学部 3 回生，4 回生，農学研究科修士学生も指導補助として交替で参加）

6 月 15 日 船越小学校 1, 2 年 2 名

6 月 17 日 一本松小学校 1 年 21 名

6 月 22 日 柏小学校 3, 4 年 13 名

10 月 19 日 平城小学校 1 年 32 名

10 月 31 日 城辺小学校 1 年 30 名 保護者参加

11 月 25 日 緑小学校 1-6 年 18 名

- ・6 月 9 日 船越小学校 うみらいく見学 3-6 年 11 名
- ・11 月 2 日 福浦小学校 スマ生簀見学 5 年 3 名 船越小学校 スマ生簀見学 3-6 年 11 名
- ・10 月 27 日（高木）福浦小学校 無脊椎動物（イカ，ウニなど）の観察と解剖 5 年 3 名
- ・11 月 24 日 久良小学校 うみらいく見学 2-6 年 12 名
- ・3 月 10 日 一本松保育所 うみらいく見学 26 名

2. 愛南町職場体験授業（ジョブチャレンジ）（中学生対象）

- ・10 月 25 日～10 月 28 日 御荘中学校 1 名を受け入れ交で指導

3. 南宇和高校 総合的な探究の時間「地域づくり探究 I・II」

- ・5 月 20 日（後藤，斎藤）南宇和高校にて講義 40 名参加 水産における課題の共有
- ・6 月 10 日（後藤，斎藤）南宇和高校にて 研究課題の検討 7 名
- ・6 月 17 日（後藤，斎藤）南宇和高校にて 研究課題の検討 7 名
- ・6 月 24 日（後藤，斎藤）南宇和高校にて 研究課題の準備 7 名
- ・7 月 15 日（後藤，斎藤）南宇和高校にて 研究課題の準備 7 名
- ・8 月 3, 4 日，8 月 16 日（後藤，斎藤）南宇和高校 西浦ステーションにて実験 7 名
- ・8 月 30 日（斎藤）西浦ステーションにて実験 7 名
- ・10 月 14 日，10 月 28 日（後藤，斎藤）実験の解析とまとめ 7 名
- ・11 月 4 日，18 日（後藤，斎藤）実験の解析とまとめ 7 名
- ・12 月 16 日（斎藤）中間発表 7 名

- ・1月20日（後藤，斎藤） プレゼン資料作成準備 7名
- ・2月3日，他3日間（後藤，斎藤） プレゼン資料，ポスター作成 7名
- ・2月16日（竹内） 御荘文化センター発表会 7名

4. そのほかの高校生指導等

- ・7月29日（後藤，斎藤） 宇和島水産高校 うみらいく
見学及び講義 5名
- ・10月20日（後藤，斎藤） 長浜高校 模擬講義，自由
討論会 20名
- ・10月20日（清水） 北宇和高校 社会共創学部説明会
- ・7月7日，10月20日，11月17日，12月8日，2月2
日（高木） 宇和島南高校 課題研究指導（写真）



(4) 一般向け講演等

竹ノ内徳人

1. 竹ノ内徳人：ポストコロナを見据えた八幡浜水産業の展望．令和4年度八幡浜経済研究会 11月例会．八幡浜市．2022年11月30日．
2. 竹ノ内徳人：愛媛県産養殖マダイの流通．南海放送ラジオ Tips 今夜なに食べる．南海放送ラジオ．松山市．2022年12月2日．
3. 竹ノ内徳人：水産物の流通・販売．愛媛大学水産人材育成講座－基礎編・水産学概論－．愛媛大学南予水産研究センター．2023年1月21日．
4. 竹ノ内徳人：水産経済・経営－令和3年度版水産白書より－．愛媛大学水産人材育成講座－基礎編・水産学概論－．愛媛大学南予水産研究センター．2023年2月18日．

(5) 一般向け雑誌記事等

松原孝博

1. 松原孝博：愛媛大学南予水産研究センター－地域発の産官学連携レジデント型教育．学術の動向，2022年11月

後藤理恵

1. 後藤理恵：マルハニチロ サカナクロス「幻の魚を口にできる日も近い 媛スマ誕生物語」．
https://www.maruha-nichiro.co.jp/sakana_x/contents/06/（2023/1/30）

若林良和

1. 若林良和：「ぎょしょく教育」のDXで日本の水産業を持続可能な成長産業へ！．電気ふるさと Vol.69：8－11（2022.09）

(6) 受賞

小林真也

1. 小林真也：デジタル庁 good digital award 2022 農業/水産/林業/食関連部門 最優秀賞 漁業を支える宇和海海況情報サービス「You see U-Sea」の実現，2022年10月

8. 新聞記事・テレビ出演等(2022年度)

高木基裕

1. 愛媛新聞, 2022年12月8日, 駆除対象ウニ ブロッコリー与え養殖
2. 愛媛新聞, 2023年3月12日, 大当たり!? 黄金ヒラメ 愛南沖で発見珍しい色素変異

若林良和

1. 若林良和: マグロの生態 (大きくなったマグロは一生泳ぎ続ける). 日テレ系「クイズ! あなたは小学5年生より賢いの?」(全国ネット)・監修, 2023年1月20日.
2. 若林良和: 愛媛出版文化賞受賞者に聞く「食育共創論: 食育の実践事例紹介 体系化 指導書の役割も」. 愛媛新聞, 2023年1月20日.
3. 若林良和: 愛媛出版文化賞 受賞者喜び「共創を超えて「共進」に」. 愛媛新聞, 2023年1月24日
4. 若林良和: 愛媛大学の社会連携と地域協働センター中予「For Your Nature Life Supported by EHIME UNIVERSITY」. FM 愛媛, 2022年12月18日.

小林真也

1. キーパーソン 県デジタル人材育成推進会議議長を務める愛媛大学理工学研究科教授. 愛媛新聞, 2022年5月15日
2. デジタル庁, 人に優しいデジタル化に取り組む「good digital award」受賞者発表, マイナビニュース 2022年9月22日

その他

1. 愛媛新聞 (2022年4月19日)「世界の水産業に貢献 愛媛大・南水研関係者ら 愛南町訪れ新体制報告」
2. 愛媛新聞 (2022年5月7日)「愛南ぎょしょく 産学官普及 国が食育賞」

9. センター視察・来訪者(2022年度)

		人
2022年4月1日	愛南町水産課	5
2022年4月5日	愛南町水産課	2
2022年4月5日	中部飼料株式会社	1
2022年4月6日	株式会社宇和島プロジェクト	2
2022年4月6日	極洋株式会社	3
2022年4月7日	黒潮生物研究所	2
2022年4月7日	マルハニチロ中央研究所	1
2022年4月7日	国立遺伝子研究所	3
2022年4月18日	愛南漁業協同組合	1
2022年4月20日	株式会社宇和島プロジェクト	2
2022年5月13日	愛媛大学プロテオサイエンスセンター	8
2022年5月13日	研究支援部研究支援課	3
2022年5月17日	黒潮生物研究所	2
2022年5月25日	愛媛県立宇和島水産高校	6
2022年5月26日	愛媛大学医学部	2
2022年5月26日	水産技術研究所	3
2022年6月14日	愛媛大学社会連携推進機構	1
2022年6月14日	愛南町役場商工観光課	2
2022年6月24日	愛媛県立南宇和高等学校	7
2022年7月9日	愛媛県立丹原高等学校	3
2022年7月22日	三泰産業株式会社	1
2022年7月22日	個人	1
2022年7月22日	株式会社アマノ	1
2022年8月3日	愛媛県立南宇和高等学校	3
2022年8月4日	愛媛大学監査室	3
2022年8月18日	愛媛県立宇和島南中等教育学校	2
2022年8月22日	株式会社デンソー	3
2022年8月23日	株式会社デンソー	3
2022年9月16日	愛媛県立南宇和高等学校	9
2022年9月26日	愛媛大学社会共創学部	30
2022年10月25日	愛南町立福浦小学校	17
2022年10月25日	愛南町立御荘中学校	1
2022年10月26日	愛媛県町村会	16
2022年10月26日	愛南町立御荘中学校	1
2022年10月28日	愛媛飼料株式会社	6
2022年11月1日	愛南町立福浦小学校, 船越小学校	17
2022年11月4日	愛南町立平城小学校	42
2022年11月23日	日東電工株式会社	2
2022年11月24日	愛南町立久良小学校	16
2022年11月25日	愛媛県町村会	16

2022年12月9日	愛媛県立南宇和高等学校	8
2022年12月13日	公益財団法人正光会	1
2022年12月16日	愛媛県立南宇和高等学校	8
2023年2月12日	愛媛県立長浜高等学校	3
2023年2月12日	愛媛県立宇和島水産高等学校	7
2023年2月12日	愛南町議会議員	1
2023年2月12日	愛媛県立宇和島東高等学校	15
2023年2月12日	太陽石油株式会社	2
2023年2月12日	個人	1
2023年2月12日	個人	3
2023年2月22日	農林水産省	2
2023年3月2日	愛南漁業協同組合	3
2023年3月2日	ダイエイトレーディング	1
2023年3月10日	愛南町立一本松保育園	26
2023年3月15日	東京大学新領域	1
2023年3月15日	一般財団法人化学物質評価研究機構	2
2023年3月15日	愛媛大学大学院理工学研究科生産環境工学専攻	1
2023年3月15日	愛媛大学工学部	1
2023年3月15日	CMES	1
2023年3月29日	一般社団法人 そっか	1
2023年3月29日	奥野製薬工業株式会社 新事業推進部	4

(総訪問者数 341人)

愛媛大学南予水産研究センター規則

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 152 号

(趣 旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第 30 条第 2 項の規定に基づき、愛媛県南宇和郡愛南町に置く愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目 的)

第 2 条 センターは、生命科学、環境科学及び社会科学による学際的な水産学研究の拠点を形成し、先端科学による漁場調査、水産養殖技術開発、水産業振興等について研究及び教育することにより、地域社会からの水産学への要望に応え、地域及び日本の水産業に貢献することを目的とする。

(研究部門)

第 3 条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 生命科学研究部門
- (2) 環境科学研究部門
- (3) 社会科学研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、愛媛大学農学部センター分室を置くことができる。

(組 織)

第 4 条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

(管理機関)

第 5 条 センターの管理運営に関する重要な事項は、愛媛大学社会連携推進機構社会連携推進会議（以下「社会連携推進会議」という。）において審議する。

(運営委員会)

第 6 条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(センター長)

第 7 条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任教授又は特命教授のうちから社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副センター長)

第 8 条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する学部等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センタ

一長の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第9条 専任教員は、社会連携推進会議が推薦し、学長が選考する。

(兼任教員)

第10条 兼任教員は、本学の専任の教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長と協議の上、センター長が学長に推薦し、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(職務)

第11条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長が不在又は事故あるときは、その職務を代行する。

3 専任教員は、センター長から指示されたセンターの業務を遂行する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

(顧問)

第12条 センターに、顧問を置くことができる。

2 顧問は、センター長の推薦に基づき、社会連携推進機構長が委嘱する。

3 顧問の任期は1年以内とし、再任を妨げない。

(客員教授等)

第13条 センターに、客員教授又は客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、国立大学法人愛媛大学客員教授等称号付与規程の定めるところによる。

(研究員)

第14条 センターに、研究員を置くことができる。

2 研究員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事するものとする。

3 研究員は、本学の専任教員のうちからセンターの専任教員が推薦し、運営委員会の議を経て、学長が任命する。

4 研究員の任期は2年以内とし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第15条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

(地域特別研究員)

第16条 センターに、地域特別研究員を置くことができる。

2 地域特別研究員に関し必要な事項は、別に定める。

(地域連携推進室)

第17条 センターに、地域連携推進室を置く。

2 地域連携推進室に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第18条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課及び農学部事務課において処理する。

(雑則)

第19条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

この規則は、平成25年9月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年6月11日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター運営委員会規程

平成 19 年 10 月 10 日

規則第 153 号

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、愛媛大学南予水産研究センター規則第 6 条第 2 項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) その他センターの運営に関すること。

(組 織)

第 3 条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 専任教員
- (4) 兼任教員
- (5) 社会連携支援部長
- (6) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第 6 号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第 4 条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議 事)

第 5 条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第 7 条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事 務)

第 8 条 運営委員会及び専門委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑 則)

第 9 条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定め

る。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

運営委員名簿

番号	区分	所属部局	職名	氏名
1	1号委員	南予水産研究センター	センター長	松原孝博
2	2号委員	南予水産研究センター	副センター長	高木基裕
3	3号委員	南予水産研究センター	教授	竹ノ内徳人
4	3号委員	南予水産研究センター	教授	後藤理恵
5	3号委員	南予水産研究センター	准教授	清水園子
6	3号委員	南予水産研究センター	准教授	斎藤大樹
7	4号委員	社会連携推進機構	機構長	若林良和
8	4号委員	社会共創学部	教授	高橋学
9	4号委員	大学院理工学研究科	教授	小林真也
10	4号委員	大学院医学系研究科	教授	今村健志
11	4号委員	大学院農学研究科	教授	菅原卓也
12	4号委員	大学院農学研究科	教授	松枝直人
13	4号委員	先端研究・学術推進機構 (沿岸環境科学研究センター)	教授	森本昭彦
14	5号委員	社会連携支援部	部長	藤田英之

(2023年3月31日現在)

愛媛大学南予水産研究センター参与会要項

(設置)

第1条 愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に、センターの事業及び運営に関して助言等を得るため、愛媛大学南予水産研究センター参与会（以下「参与会」という。）を置く。

(組織)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 社会連携推進機構長
- (2) 大学院農学研究科長
- (3) 社会共創学部長
- (4) 南予水産研究センター顧問
- (5) 南予水産研究センター長及び副センター長
- (6) 南予水産研究センター運営委員会委員のうちから社会連携推進機構長が指名する者 若干人
- (7) 社会連携推進機構長が委嘱する学外有識者

2 前項第7号の委員の任期は、2年を超えない範囲で社会連携推進機構長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(任務)

第3条 参与会は、センターの事業及び運営に関して、次の各号に掲げる事項を行う。

- (1) 地域行政、漁業協同組合等との連携及び地域社会のニーズの発掘についての支援
- (2) センターにおける研究、教育等への助言・支援
- (3) その他センターの事業及び運営に関する事項

(会議)

第4条 参与会に、座長を置き、社会連携推進機構長をもって充てる。

- 2 座長は、必要に応じて参与会を招集する。
- 3 座長に事故があるときは、座長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。
- 4 座長は、議題に応じ、関係する本学の職員を参与会に出席させるものとする。

(事務)

第5条 参与会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、社会連携推進機構長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成26年1月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年10月29日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター参与会委員名簿

氏 名		所 属 ・ 職 名
愛媛大学	若 林 良 和	社会連携推進機構長
	山 内 聡	大学院農学研究科長
	徐 祝 旗	社会共創学部長
	武 岡 英 隆	南予水産研究センター顧問
	金 尾 聡 志	南予水産研究センター顧問
	松 原 孝 博	南予水産研究センター長
	高 木 基 裕	南予水産研究センター副センター長
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター運営委員会委員 教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	齋 藤 大 樹	南予水産研究センター運営委員会委員 准教授
	高 橋 学	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	小 林 真 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	今 村 健 志	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	菅 原 卓 也	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	松 枝 直 人	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	森 本 昭 彦	南予水産研究センター運営委員会委員 教授（兼任）
	藤 田 英 之	南予水産研究センター運営委員会委員 部長
	学外有識者	岡 原 文 彰
清 水 雅 文		愛南町長
桧 垣 俊 司		愛媛県農林水産研究所水産研究センター長
平 井 義 則		愛媛県漁業協同組合 代表理事組合長
立 花 弘 樹		愛南漁業協同組合 代表理事組合長
竹 田 英 則		久良漁業協同組合 代表理事組合長
原 田 達 也		愛南町議会 議長
大 西 光		愛南漁業協同組合 魚類養殖協議会長
仲 川 松 廣		愛南漁業協同組合 真珠貝養殖協議会長
濱 田 克 人		久良漁業協同組合 魚類養殖協議会長
松 下 定 一		愛媛県漁業協同組合吉田支所 運営委員長
平 井 義 則		愛媛県漁業協同組合宇和島支所 支所運営委員長
松 本 嘉 晃		愛媛県認定漁業士協同組合 理事長

(2023年3月31日現在)

愛媛大学南予水産研究センター地域特別研究員要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター規則第16条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）に受け入れる地域特別研究員の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(受入手続)

第2条 県・市町村の行政機関及び水産業を行っている機関（漁業協同組合等）（以下「派遣機関」という。）の長が地域特別研究員を派遣しようとするときは、センターが別に定める申込書に、派遣機関の長の推薦書及び本人の履歴書を添え、愛媛大学南予水産研究センター長（以下「センター長」という。）に申し込まなければならない。

(受入承認)

第3条 センター長は、愛媛大学南予水産研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の議を経て、地域特別研究員の受入れを決定し、派遣機関の長へ通知するものとする。

(研究方法)

第4条 地域特別研究員は、センターの専任教員及び兼任教員の指導の下で、センターの研究活動に従事する。

2 地域特別研究員の研究場所は、センター長が確保するものとする。

(研究期間)

第5条 地域特別研究員の研究期間は、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、センター長が決定する。

(報酬等)

第6条 地域特別研究員に対する研究期間中の報酬その他人件費等は、本学からは支給しない。

2 地域特別研究員に対する調査研究等に係る経費（調査研究旅費を含む。）については、派遣機関との協議及び運営委員会の議に基づき、経費の額を決定する。

(研究料)

第7条 地域特別研究員に係る研究料は、徴収しない。

(研究証明書の交付)

第8条 地域特別研究員が、その研究事項について証明を願い出たときは、センター長は研究証明書を交付する。

(弁償等の義務)

第9条 地域特別研究員は、研究期間中において故意又は重大な過失によりセンターの設備、機械、器具等を亡失又は損傷したときは、速やかに復元し、又はその損傷を弁償しなければならない。

(遵守事項)

第10条 地域特別研究員は、この要項に定めるもののほか、センター長の指示に従わなければならない。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、地域特別研究員に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室設置要項

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学南予水産研究センター（以下「センター」という。）規則第17条第2項の規定に基づき、愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室（以下「推進室」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 地域からのセンターへの要請に関すること。
- (2) センターによる地域連携活動の企画、実施に関すること。
- (3) その他、センターの地域連携活動に関すること。

(組織)

第3条 推進室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 室員
 - ア センターの専任教員
 - イ 地域のステークホルダー 若干人

2 室長は、センター長が指名する専任教員をもって充てる。

3 第1項第2号イの室員は、センター長がその者の所属する機関等の長の同意を得て委嘱する。

(任期)

4 室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、室長及び室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(業務)

第4条 室長は、推進室に関する業務を掌理する。

2 室員は、推進室の業務を処理する。

(雑則)

第5条 この要項に定めるもののほか、推進室に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成30年4月1日から施行する。

2 愛媛大学南予水産研究センター地域連携・研究支援室設置要項（平成20年4月1日制定）は廃止する。

愛媛大学南予水産研究センター地域連携推進室室員名簿

	氏 名	所 属 ・ 職 名
愛 媛 大 学	高 木 基 裕	南予水産研究センター 教授 (地域連携推進室長)
	松 原 孝 博	南予水産研究センター 教授
	竹ノ内 徳 人	南予水産研究センター 教授
	後 藤 理 恵	南予水産研究センター 教授
	清 水 園 子	南予水産研究センター 准教授
	齋 藤 大 樹	南予水産研究センター 准教授
学 外 有 識 者	岡 田 孝 洋	愛南漁業協同組合 販売促進部長
	山 岡 惣一郎	久良漁業協同組合 職員
	和 田 敬 行	愛媛県立宇和島南中等教育学校 教諭
	鈴 木 康 夫	愛媛県立宇和島水産高等学校 教諭
	高 石 貞 彦	愛媛県立南宇和高等学校 教頭
	大 森 安 洋	愛南町商工観光課 課長補佐
	清 水 貴 光	愛南町水産課 課長補佐

(2023年3月31日現在)

愛媛大学南予水産研究センター年報編集委員会

委員長	松原 孝博	南予水産研究センター・センター長
副委員長	高木 基裕	南予水産研究センター・副センター長
	筒井 隆	社会連携支援部社会連携課副課長

愛媛大学南予水産研究センター年報 第 15 号 (2022 年度版)

発行：2023 年 11 月

発行者：愛媛大学南予水産研究センター 船越ステーション

〒 798-4292 愛媛県南宇和郡愛南町船越 1289-1

TEL 0895-82-1022 FAX 0895-82-1026

愛媛大学南予水産研究センター 西浦ステーション

〒 798-4206 愛媛県南宇和郡愛南町内泊 25

TEL 0895-73-7112 FAX 0895-73-7113

愛媛大学南予水産研究センター 松山ステーション (社会連携推進機構)

〒 790-8577 愛媛県松山市文京町 3

TEL 089-927-8145 FAX 089 - 927-8820

URL <http://ccr.ehime-u.ac.jp/cnf/>

表紙写真

宇和島湾奥 (撮影者：武岡英隆)